



夜がせまっています。れんは、身じろぎもせずに夫のことは聞いていました。夫にとつてこれからが大変なんだと思うと、れんの心も何かかもえてくるようでした。

自然の力

天保六年（一八三五年）すすきの穂がゆれ、秋空のひろがる猪苗代湖のほとりに、三人の男が立っていました。湖水を背にして立つ佐藤豊助をはさんで、八田